

里山をモデルに 森を守る



里山の取り組みをインドネシアに応用できないか議論

自然の美しさや、そこに暮らす生き物が好きで、国立公園で環境を守る仕事をしています。しかし近年のインドネシアでは、伐採や火災などが原因で森林が減っているのが現状です。このままでは生態系が崩れ、人々の生活も脅かしかねない。そこで目を付けたのが、自然を守りつつ、その資源を絶やすことなく利用してきた日本の里山の取り組みでした。

石川県にある里山では、クヌギの植樹が行われていました。これは森林を守るだけでなく、木から炭を作って販売するためのもの。また、里山の美しい景観を保全することで、観光客を集めようという取り組みも行われていました。どちらのケースでも、森林を守ることが、地域経済の活性化につながっている。だからこそ、住民たちが自然のありがたみを理解し、持続的に利用しようという努力がなされています。インドネシアでも住民たちと一緒に森林保全ができるような仕組みづくりを目指していきます。



インドネシア



スリ・レストリ・インドゥリアニさん

林業省 森林保護・保全局 野生動物保護区 管理課長

離島ならではの 医療を広める



離島医療の課題を共有しながら解決策を探る

マーシャル諸島で今、大きな問題となっているのが、糖尿病と肥満症の増加です。医師と看護師が協力しながら診療や啓発活動を行っていますが、1,200もの島があるため、施設も人手も足りません。そこで、日本の離島ではどのようにこの課題に立ち向かっているのかを知りたいと思いました。

研修で訪れたのは奄美群島。遠隔地の住民に保健医療サービスを届けるため、巡回診療バスを運行していました。これなら医療施設の少なさを補えるはず。まさに離島ならではの工夫です。

また、お年寄りが元気に歩いていることも印象的でした。家からほとんど出ないマーシャル諸島のお年寄りとは大違い。奄美群島では、子どもの時から学校や職場、イベントなどで運動する時間を設けたり、バランスの良い食事を取るよう指導したりと予防医療を実施していました。カロリー計算や肥満度チェックなどの手法も勉強になりました。きっとマーシャル諸島の人たちの意識向上に役立つはずです。



マーシャル諸島



オーリン・デ・ブレムさん

保健省 ケゼリン環境保健局 プライマリーヘルスケア部長

研修員に聞く！

だから私は日本に来た！

日本にやって来る研修員たちは、どんな思いで参加を決め、どんなことを学び、そして今後どう生かそうとしているのか。一人一人の生の声を聞いてみよう。



伝統技術に 新たな息吹を



研修の成果として、日本最大級のデザインイベントに出展

キシコ南部オアハカ市にあるNGOで、衣服や雑貨などをデザインする仕事をしています。私たちの地域には、代々受け継がれてきた伝統的な機織りの技術があります。しかしライフスタイルが変化する中、今の消費者が求めるモダンな製品をなかなか生み出せずにいました。伝統技術を生かしながら、今「売れる」製品を作る。その方法を学ぶため、同じ課題に挑んできた京都に来ました。

蒔絵や清水焼などの伝統工芸の現場を見て回ったのですが、中でも西陣織の繊細な美しさ、熟練の技には圧倒されました。さらに驚いたのが、需要が減ってしまった着物の生地を使って、ネクタイやバッグなどを作っていたこと。まさに伝統と現代のニーズを組み合わせた製品です。

京都の職人さんたちは、自身の技術に誇りを持っていました。「伝統技術とその価値を十分に分かっていないと、モダンな製品は作れない」。彼らの言葉を胸に刻み、魅力ある製品を作っていきます。



メキシコ



ルル・ゴンサレス・オスナヤさん

オアハカコミュニティ 担当デザイナー

付加価値のある コーヒーを生み出す



コーヒーの加工工場では衛生管理の大切さを実感

標 高が高く、雨量に恵まれたルワンダではコーヒー豆の生産が盛ん。豊かなコクと香りが特徴で、主要な輸出産品の一つです。国の産業を活性化するためには、このコーヒーの輸出増加が不可欠ですが、これまでは海外の消費者のニーズなど商品開発に必要な情報が不足していました。そこで、日本ではどのように商品価値を高めているのか学びに来ました。

日本でトップブランドのUCCの加工工場では、何度も味や香りを確認するという品質管理の徹底ぶりに驚きました。そして、店頭ではこういった商品ができるまでの過程を「ストーリー」として紹介し、商品を販売していました。そうすることで日本人が求める「信頼性」や「親しみやすさ」などの付加価値を生み出していたのです。ルワンダに戻ったら、このことを生産者や卸売業者に伝えたい。そして、消費者のニーズを基に、より魅力ある商品開発を進めていきたいと思っています。



ルワンダ



ルクワヤ・エリックさん

農業輸出振興局 産品開発研究担当者